

# 日本の未来図の運用状況

日本の未来図(米ドル投資型)/(円投資型)  
追加型投信/国内/株式

2015年10月9日

- 日本の未来図(米ドル投資型)および(円投資型)は、10月6日に第1期の決算を迎えました。当レポートでは、第1期の投資環境や銘柄選別、個別銘柄の基準価額への寄与などについてご報告いたします。
- 今後も、将来の諸問題の課題克服に向け取り組むことで成長が期待される銘柄へ投資し、ファンドのパフォーマンス向上を目指してまいります。

## 1. 第1期の投資環境および銘柄選別(第1期)

国内株式市場は、2014年10月末に日銀が追加金融緩和策を決定したことや、消費税率の再引上げが延期されたことで国内景気の改善期待が高まり、2015年6月下旬にかけて上昇基調で推移しました。しかし、その後は、ギリシャ情勢に対する懸念が高まったことや、米国の利上げに対する警戒感に加え、中国の景気減速による先行き不透明感などから投資家のリスク回避姿勢が強まり、国内株式市場は下落しました。

外国為替市場では、米国景気の改善に伴って2014年12月にかけて米ドルが対円で120円台に上昇し、その後は、米国の金融政策をにらみ、一進一退の動きとなりました。

ファンドの運用は、主要投資対象である「日本未来戦略マザーファンド(以下、マザーファンドといいます。)」を通じて行っております。マザーファンドの運用につきましては、わが国の将来の諸問題に対して、従来の常識を超えた技術、発想で取り組むことが期待される企業に着目して銘柄選別を進め、車載用モーターの拡充を通じ、自動車の低燃費化に貢献すると考えられた日本電産や、医療診断情報の一元化やネットワーク化など医療のIT化を推進している富士フィルムホールディングスなどを組入れ上位としました。

このような市場環境のなか、第1期末の基準価額は、米ドル投資型が当初設定元本(1万口当たり)の10,000円から10,966円となり、円投資型が同10,000円から10,093円となりました。

## 2. 基準価額に寄与した主な銘柄(第1期)

マザーファンドにおける個別銘柄の主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

訪日外国人旅行者の増加による業績面での恩恵が期待されたドンキホーテホールディングスや、生産現場の省人化に向けたロボット投資拡大に対する期待から、3月にかけて株価が上昇したハーモニック・ドライブ・システムズなどが基準価額にプラスに寄与しました。

一方、新製品の拡販の遅れなどから、業績見通しの下方修正を発表したファインデックスや、主力の橋梁事業における競争激化により、2015年度業績営業利益の減益見通しを発表したことなどから株価が低迷した川田テクノロジーなどが基準価額にマイナスに寄与しました。

TOPIX(東証株価指数)の推移



米ドル円為替相場の推移



### 基準価額に寄与した主な銘柄

プラス寄与銘柄	
1	ドンキホーテホールディングス
2	ハーモニック・ドライブ・システムズ
3	東海旅客鉄道

マイナス寄与銘柄	
1	ファインデックス
2	川田テクノロジー
3	マツダ

(期間) 2014年10月31日～2015年10月6日

### <本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、「日本の未来図(米ドル投資型)/(円投資型)」に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

日本の未来図(米ドル投資型)/(円投資型)  
追加型投信/国内/株式

運用状況

(作成基準日：2015年10月6日)

ファンドの概要

	米ドル投資型	円投資型
基準価額	10,966円	10,093円

(※) 基準価額は1万口当たりです。

	米ドル投資型	円投資型
株式組入比率	92.3%	92.5%
マザーファンド	95.3%	95.5%
為替予約比率	93.1%	---

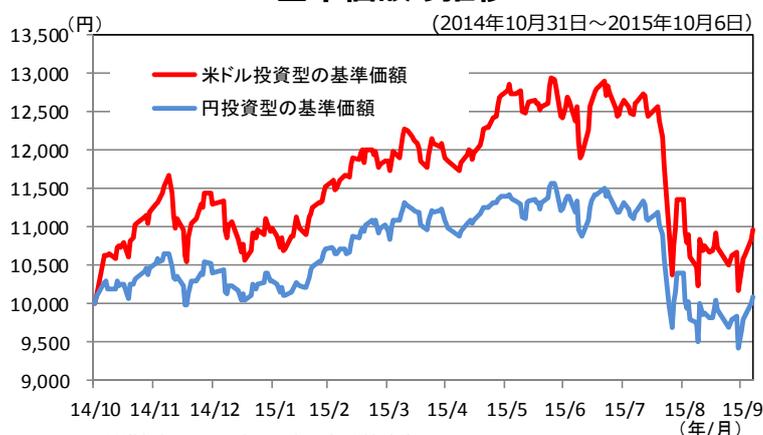
(※) 株式組入比率は、日本未来戦略マザーファンドを通じた、株式の実質組入比率です。

(※) 為替予約比率は、純資産総額に対する円売り米ドル買いの外国為替予約取引額の比率です。

	日本未来戦略マザーファンド
株式組入比率	96.9%
組入銘柄数	47銘柄

(※) 株式組入比率は、日本未来戦略マザーファンドにおける、株式の組入比率です。

基準価額の推移



※ 基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。

※ 設定日の基準価額は1万口当たりの当初設定元本です。

※ グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

組入上位10業種

順位	業種名	構成比
1	電気機器	10.9 %
2	輸送用機器	9.7 %
3	医薬品	8.7 %
4	化学	6.2 %
5	食料品	6.0 %
6	小売業	5.2 %
7	精密機器	5.0 %
8	陸運業	4.8 %
9	情報・通信業	4.6 %
10	水産・農林業	4.6 %

組入上位10銘柄

順位	銘柄名	構成比
1	日本電産	4.9 %
2	デンソー	4.4 %
3	住友電気工業	3.9 %
4	富士フイルムホールディングス	3.5 %
5	エヌ・ティ・ティ・データ	3.1 %
6	ドンキホーテホールディングス	3.0 %
7	日産自動車	2.9 %
8	ペプチドリーム	2.9 %
9	島津製作所	2.8 %
10	日本航空	2.6 %

市場別構成比

上場市場	構成比
東証第一部	90.0 %
東証第二部	1.7 %
ジャスダック	0.9 %
マザーズ	4.3 %

※ 市場別構成比は四捨五入して表示しておりますので、上記、株式組入比率の合計値と一致しないことがあります。

※ 業種、銘柄、市場の各構成比は、いずれも日本未来戦略マザーファンドの純資産総額に対する比率です。

日本の未来図(米ドル投資型)/(円投資型)ファンドの特色

- 日本未来戦略マザーファンドの受益証券への投資を通じて、主として、わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）株式に実質的に投資を行い、投資信託財産の成長を目指して運用を行います。なお、投資環境によっては新興市場の株式に積極的に投資を行う場合があります。
- 投資候補銘柄の選定にあたっては、わが国の将来の諸問題に対して、従来の常識を超えた技術、発想で取り組むことが期待される企業に着目して、ボトムアップ・アプローチにより銘柄を選定します。
- ポートフォリオの構築にあたっては、企業の成長性、ROE（自己資本利益率）や利益率等の業績動向を含む定量分析、信用リスク等を含む定性分析、バリュエーション、業種別比率等を勘案して行います。
- 株式の実質組入比率は高位を保つことを基本とします。
- 「日本の未来図(米ドル投資型)」  
円建て資産について、原則として円売り米ドル買いの外国為替予約取引等（以下、「為替取引」といいます）を行い、米ドルへの投資効果を楽しむことを目指します。純資産総額に対する円売り米ドル買いの為替取引の額は、原則として高位とすることを基本とします。
- 「日本の未来図(円投資型)」  
・ 為替取引は行いません。  
・ 株式以外の資産の実質投資割合は、原則として投資信託財産総額の50%以下とします。

(作成：エクイティ運用部)

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、「日本の未来図(米ドル投資型)/(円投資型)」に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。



日本の未来図(米ドル投資型)/(円投資型)  
追加型投信/国内/株式

日本の未来図 (米ドル投資型) / (円投資型) に関する留意事項

【岡三アセットマネジメントについて】

商号：岡三アセットマネジメント株式会社

岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長（金商）第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

【投資リスク】

- 投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様に帰属します。ファンドは、国内の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、「米ドル投資型」は、為替相場の変動により損失を被ることがあります。
- ファンドの基準価額の主な変動要因としては、「株価変動リスク」、「為替変動リスク」、「信用リスク」があります。  
※基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

【その他の留意点】

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファンドが投資対象とするマザーファンドを他のベビーファンドが投資対象としている場合に、当該他のベビーファンドにおいて追加設定および一部解約等がなされた場合には、その結果として、マザーファンドにおいても売買等が生じ、ファンドの基準価額に影響を受けることがあります。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご参照ください。

【お客様にご負担いただく費用】

＜お客様が直接的に負担する費用＞

- 購入時  
購入時手数料：購入価額×購入口数×上限3.24%（税抜3.0%）
- 換金時 換金手数料：ありません。  
信託財産留保額：ありません。

＜お客様が信託財産で間接的に負担する費用＞

- 保有期間中 運用管理費用（信託報酬）：純資産総額×年率1.6632%（税抜1.54%）
- その他費用・手数料 監査費用：純資産総額×年率0.0108%（税抜0.01%）
- 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を信託財産でご負担いただきます。なお、マザーファンドの当該費用につきましては、間接的にご負担いただきます。（監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。）
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。

## 販売会社について

(受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。)

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
<b>(金融商品取引業者)</b>					
株式会社SBI証券	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
ひろぎんウツミ屋証券株式会社	中国財務局長(金商)第20号	○			
益茂証券株式会社	北陸財務局長(金商)第12号	○		○	

### <本資料に関するお問合わせ先>

カスタマーサービス部 フリーダイヤル **0120-048-214** (9:00~17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)